

弘前市適正着果サポートアプリ 撮影ガイドライン

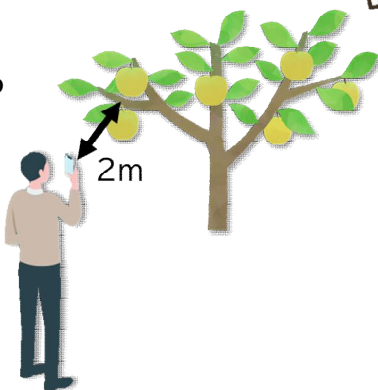
このアプリは、撮影した写真の葉と実の数を基に、摘果量が適正かどうかを判定するものです。判定の対象は、マルバカイドウ台のふじで、仕上げ摘果時期の使用を想定しています。摘果分析の精度を高めるために、ガイドラインに沿って撮影を行ってください。
※仕上げ摘果時期以外や、ガイドライン通りの撮影でない場合、適切な判定結果が表示されない可能性があります。

適切な撮影の仕方

距離

撮影の際は、対象の枝から2m程度離れて撮るのが目安です。

(両手を広げた距離よりもちょっと離れて立つ)

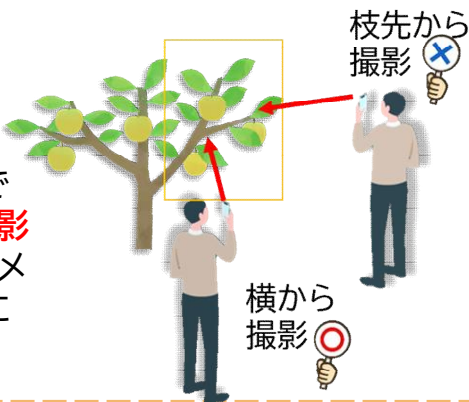


対象

成木の場合は、**平均的な着果部位(結果母枝群)**がちょうど収まるように撮影するのが良いです。(撮影例を参照)

向き

撮影する方向は、枝の先端から撮影するのではなく、**枝の横から撮影**するのが良いです。カメラと葉の距離が均一になります。



逆光に注意する

逆光で撮影をすると、対象が白飛びしたり暗く映るため葉の形状が判別しにくくなってしまいます。



映り込みを避ける

支柱など避けようの無いものを除き、車、人、農具、小屋などはできるだけ避けて撮影を行ってください。



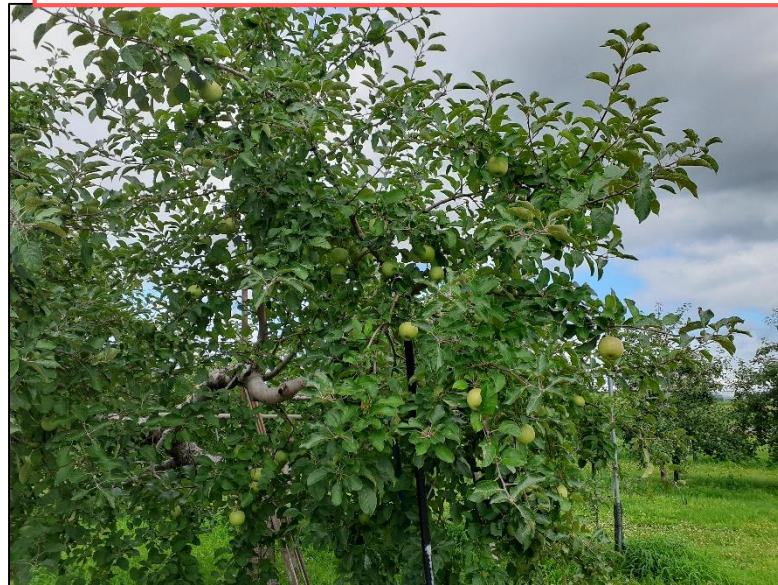
車が映っている

人や脚立が映っている

適切な撮影の例



- ・結果結果母枝群が画角に収まっている
- ・2m程度離れて、枝の横側から撮影している
- ・樹以外のものが映り込んでいない



悪い撮影の例



距離が遠い



距離が遠い



距離が近い



距離が近い、奥行きがあり過ぎる

